

カウンターカルチャーと社会運動とオルタナティブ出版に関する
約70万ページの一次史料群



Power to the People: Counterculture, Social Movements, and the Alternative Press

Power to the People: Counterculture, Social Movements, and the

オルタナティブな社会を志向した人々と団体の 70 万ページの一次史料群

本アーカイブはカウンターカルチャー、社会運動、オルタナティブ出版に関する約 70 万ページの一次史料を電子化し、全文検索を実現した電子リソースです。既存の政治社会制度に異議申し立てを行い、オルタナティブな生き方を追求する 1960 年代に世界的な規模で広がったムーブメントはその後、カウンターカルチャーと呼ばれるようになり、カウンターカルチャーと
言えば 1960 年代のムーブメントを指し示す用語として広く使われるようになりました。しかし、時代の支配的イデオロギーとは異なるオルタナティブな政治や社会や文化を追求する思想や運動は近代史の底流で脈々と受け継がれ、その伝統の上に 1960 年代のムーブメントが盛り上がりを見せたこととみなすこともできます。本アーカイブは 19 世紀以降にオルタナティブな政治や社会を追求した人々や団体の刊行物（パンフレット、雑誌、ニュースレター、新聞、チラシ、ポスター等）を集め、1960 年代に最高潮に達したカウンターカルチャーを近代史の中で再評価しようと試みる際の基礎資料集となるように制作されたものです。関連主題はポピュラーカルチャー、反戦運動、非暴力運動、反核運動、公民権運動、環境保護運動、女性解放運動、労働運動、オルタナティブ出版等々、文化、芸術、思想、宗教、社会から政治、経済、教育、科学まで、広範囲に亘ります。当時の息吹をヴィジュアルに伝える雑誌やポスターもフルカラーで収録されています。

収録コレクション

アメリカ西海岸カウンターカルチャーコレクション(Pacific Coast Counterculture Collection)

グラフィックデザイナー、作家、編集者として多方面で活躍するロバート・クニー・ジュニア (Robert P.J. Cooney, Jr.) が蒐集したコレクションです。サンフランシスコ生まれのクニーはベトナム戦争への兵役を拒否したことを契機に政治運動に関わるようになりましたが、その一方でカウンターカルチャーに関する資料の蒐集を精力的に行ないました。クニーが蒐集した資料はパンフレット、小冊子、雑誌、新聞、チラシ等、約 11,000 点に及びます。資料はカウンターカルチャー、社会運動、オルタナティブ出版の三つのカテゴリーに大別され、これらのカテゴリーの下に 58 の分野が設けられています(詳細は 3 ページ目を参照ください)。現代人の生活と思想においても意義を失っていないカウンターカルチャーを再評価するための格好の資料群です。なお、クニーが蒐集した資料には 400 点以上のポスターも含まれていますが、色鮮やかなポスター群を閲覧・検索しやすいよう、本アーカイブではポスター群を独立のコレクションとして扱っています。《ロバート・クニー・ジュニア個人蔵》

(参考) 小社ウェブサイトに寄稿した記事でロバート・クニー・ジュニアがコレクションの内容と時代背景を解説しています
<https://review.gale.com/2023/12/19/an-interdisciplinary-treasure-chest-the-pacific-coast-counterculture-collection/>

ミシガン大学学生運動コレクション(The Liberal Students of 1960s University of Michigan Collection)

公民権運動、ベトナム反戦運動が盛り上がりを見せた 1960 年代のアメリカでは、大学キャンパスを舞台に学園闘争が展開されました。学生主体の反戦運動団体である民主社会のための学生同盟 (Students for a Democratic Society, SDS) の生誕地であるミシガン大学も学園闘争の拠点の一つでした。本コレクションは SDS の支持者であったミシガン大学生が卒業後に蒐集した資料です。パンフレット、ニュースレター、新聞、チラシ等、コレクションは総ページ数 250 ページの小規模なものです。1968 年と 1969 年におけるミシガン大学の学生運動を記録した貴重なドキュメントです。《ミシガン大学蔵》

ブラッドフォード大学平和・政治・社会変化関係コレクション(University of Bradford's Special Collections on Peace, Politics, and Social Change: Pamphlets and Ephemera)

世界有数の平和学の研究拠点として知られる英国のブラッドフォード大学が所蔵する非暴力関係資料を集めたコモンウィールコレクション (Commonweal Collection) の一部をなし、非暴力主義、非暴力運動、反戦運動、徴兵制反対、反核運動、核軍縮・核廃絶運動、環境保護運動に関するパンフレットや短命出版物約 7,000 点を収録します。二つの世界大戦と冷戦で刻印された 20 世紀にあって平和を基軸とした政治・社会モデルを志向した人々の貴重な遺産です。《ブラッドフォード大学蔵》

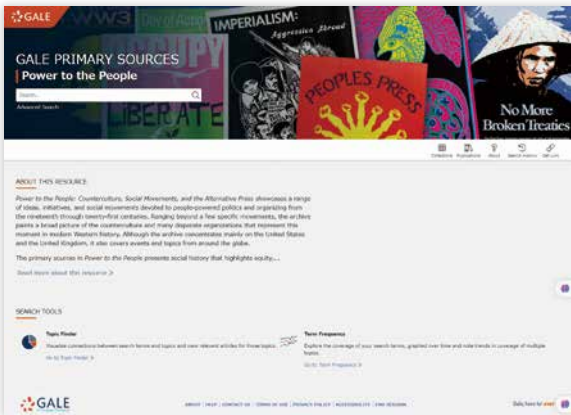
ロン・ハイスラー左翼政治・急進政治運動関係パンフレット選集(Pamphlets on Left-Wing Politics and Radical Political Movements: Selections from the Ron Heisler Collection)

英国の歴史家で社会主義者のロン・ハイスラー (Ron Heisler) が蒐集したコレクションです。15 歳の時、スエズ危機で政治意識が芽生えたハイスラーは社会主義者たちとの交流を深めました。18 歳になると政治文献の蒐集を本格的に始め、後年蒐集コレクションをロンドン大学図書館に寄贈しました。本アーカイブではハイスラーが寄贈したコレクションから左翼政治と急進主義に関する約 2,400 冊のパンフレット、短命出版物を収録します。《ロンドン大学図書館蔵》

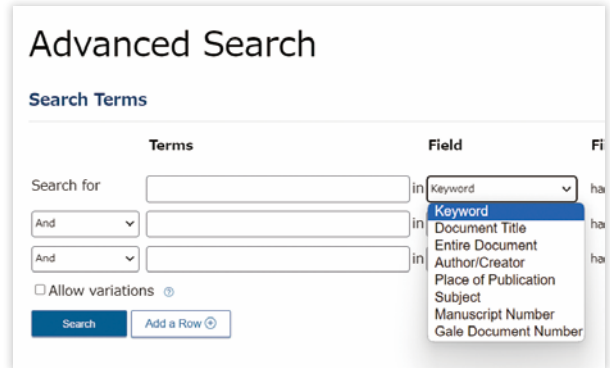
英国のサブカル雑誌 Bizarre, Fortean Times, Viz

オルタナティブなライフスタイルを提案した月刊誌 Bizarre の創刊号(1997 年 8 月)から 2015 年 2 月号まで、超常現象に情熱を傾けたチャールズ・フォート (Charles Fort) を信奉するボブ・リカード (Bob Rickard) により創刊されたオカルト月刊誌 The News: A Miscellany of Fortean Curiosities (1976 年 8 月号から Fortean Times に改称) の創刊号 (1973 年 11 月) から 2020 年 12 月号まで、ポリティカル・コメディの時流に逆らい社会や文化を痛烈に風刺した月刊コミック誌 Viz の創刊号(1979 年 12 月)から 2021 年 1 月号までを収録します。《大英図書館/デニス・パブリッシング社蔵》

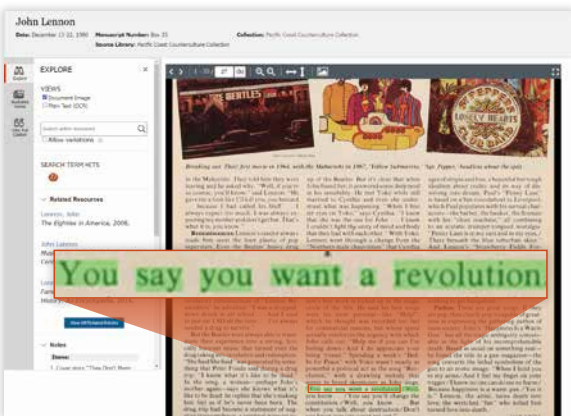
Alternative Press



トップページ



詳細検索（検索範囲の指定・掛け合わせ検索・ファジー検索）



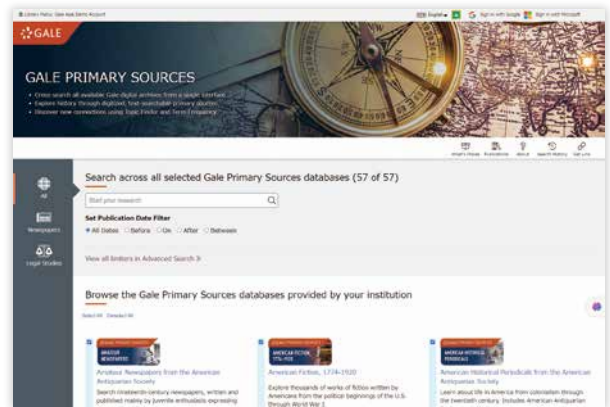
一字一句までフルテキスト検索、検索語はハイライト表示



文書に画像が含まれる場合は、文書表示画面の左のコラムで画像タイトルにマウスオーバーすると画像がポップアップ表示されます



文書表示画面では、文書イメージとOCRテキストを左右見開きで表示することができます



統合検索プラットフォーム Gale Primary Sources では追加コストなしで導入済の Gale の買切データベースとの横断検索ができます

データベースの概要

- ◆ **収録資料**：パンフレット、雑誌、ポスター、ビラ、タイプ打ち原稿等（約 70 万ページ）
- ◆ **収録資料の期間**：1800 年～ 2020 年（大半の文書）
- ◆ **収録資料の言語**：英語、フランス語、ドイツ語他
- ◆ **原資料所蔵機関**：ブラッドフォード大学、ロンドン大学図書館、ミシガン大学、大英図書館、個人蔵他
- ◆ **機能**：ページ送り、画面拡大・縮小、全画面表示、輝度・コントラスト調整のビューワ機能の他、印刷、PDF ファイルのダウンロード、OCR テキストのダウンロード、書誌自動生成、書誌情報のエクスポート、メール送信、Google / Microsoft ログインとクラウド連携を実装、別契約の Gale Digital Scholar Lab でテキストマイニングでもご利用いただけます。

収録資料(例)

》Pacific Coast Counterculture Collection

パンフレット、小冊子、雑誌、新聞、ポスター、カタログ、ステッカー、チラシ等の資料群は3つのカテゴリと58の主題に分類されています。

カウンターカルチャー

- ◆ 協同組合 (Collectives)
- ◆ コミュニティ
- ◆ ドラッグ
- ◆ エネルギー
- ◆ エコロジー
- ◆ 教育
- ◆ 食品
- ◆ 健康
- ◆ ヒッピー
- ◆ 音楽
- ◆ ポピュラーカルチャー
- ◆ 情報リソース・ダイレクトリ

- ◆ アングラ漫画
- ◆ アングラ出版

社会運動

- ◆ アナキズム
- ◆ 動物の権利
- ◆ 反核運動
- ◆ 反戦運動
- ◆ ブラックアメリカ
- ◆ ブラックパンサー
- ◆ 不買運動
- ◆ 中国/天安門広場
- ◆ 公民権運動
- ◆ 陰謀・裁判

- ◆ 核軍縮運動
- ◆ 環境保護運動
- ◆ ゲイ解放運動
- ◆ 外国事情 (International)
- ◆ 労働運動
- ◆ 男性運動
- ◆ 先住民運動
- ◆ ニューエイジ運動
- ◆ 非暴力
- ◆ 組織化運動
- ◆ 人々
- ◆ 警察・司法
- ◆ 政治分析

- ◆ 政治的急進主義
- ◆ 政治と政治家
- ◆ 監獄・囚人
- ◆ 人種差別
- ◆ セクシュアリティ
- ◆ スピリチュアル運動
- ◆ 技術・コンピュータ
- ◆ 女性解放運動
- ◆ 女性平和キャンプ
- ◆ 青年運動

オルタナティブ出版

- ◆ オルタナティブ出版
- ◆ 芸術と文化

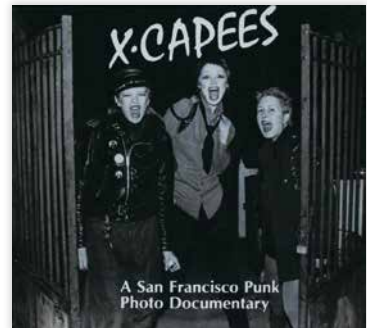
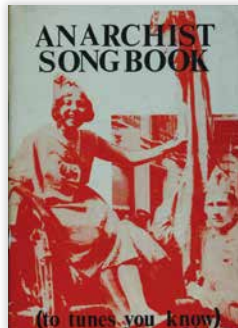
- ◆ 芸術と文化ーサンフランシスコ湾岸地域
- ◆ カレンダー
- ◆ カタログ
- ◆ グラフィックアート
- ◆ ユーモア誌、コミック誌、漫画誌、風刺誌
- ◆ 文学
- ◆ メディア
- ◆ 詩
- ◆ 同人誌 (Zines)

以下では、58の主題から主要な主題を取り上げ、収録パンフレットの一部をご紹介します。画像はパンフレット、雑誌等から取られたものです。

ポピュラーカルチャー/音楽

【パンフレット(例)】

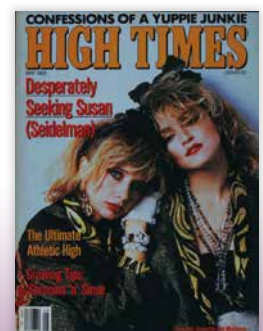
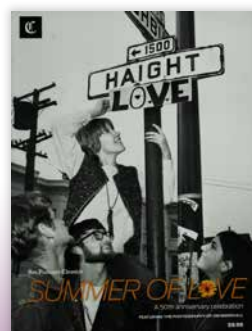
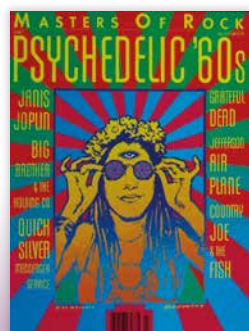
- ◆ スティーヴ・ロバーツ『映画『マックス・ヘッドルーム』カラーブック』(1986)
- ◆ 『不満の炎を煽り立てる労働者のソングブック(世界産業労働組合)』(1968)
- ◆ 『新反核ソングブック』(1980s)
- ◆ 『アース・ファースト!リル・グリーンソングブック』(1986)
- ◆ 『アナキスト・ソングブック』(1987)
- ◆ 『1778年から1834年までの英国改革バラッド集』(ディック・ホルドストック蒐集)(1994)



ヒッピー/ドラッグ/青年運動

【パンフレット(例)】

- ◆ ジェリー・ホブキンス『ヒッピー文書』(1968)
- ◆ キャロライン・バーンズ『ヒッピー・シーン』(1968)
- ◆ リチャード・ゴールドスタイン編『US』第1・2号(1969)
- ◆ 『最高裁「ティモシー・リアリー対カリフォルニア州」裁判資料集』(1971)
- ◆ 『麻薬の道:ヘロインと帝国主義』(1972)
- ◆ ヴィルヘルム・ライヒ『若者の性的闘争』(1972)
- ◆ ケン・キージー『ガレージセール』(1973)
- ◆ スティーヴン・ガスキン『マリファナ裁判:マリファナの宗教的利用の擁護』(1974)
- ◆ 『サンフランシスコ・オラクル 1966-1968年』(ファクシミリ復刻版、アレン・コーエン等による詳細な解題含む)(1991)
- ◆ 『サンフランシスコ・クロニクル「愛の夏」50周年記念号』(2017)
- ◆ パメラ・スミス『1967年の夏:アクティヴィストの回想』(刊行年不詳)



エネルギー／エコロジー／環境保護運動／動物の権利

【パンフレット (例)】

- ◆ マーティン・ゲレン『汚染産業複合体の形成』(1970)
- ◆ バリー・ワイスバーグ『エコロジーの政治』(1970)
- ◆ 『エネルギー危機—神話と現実:マレイ・ブクチンへのインタビュー』(1973)
- ◆ ペリー・フィリップス『よくある 10 の動物の権利否定論に対する反論』(1970s)
- ◆ カール・セーガン『生命の恩寵を受けた世界を保存するために』(1982)
- ◆ ピーター・シンガー『動物解放運動』(1985)
- ◆ J.J. ロバーツ『困難を乗り越えて:動物の解放 1972-1986 年』(1986)
- ◆ ビリー・レイ・ボイド『新しい廃止論者:動物の権利と人間の解放』(1987)

食品／健康／教育／コミュニティ

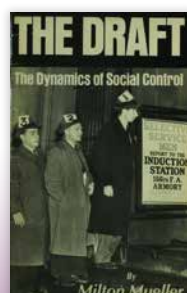
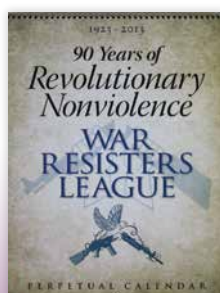
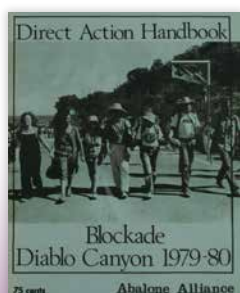
【パンフレット (例)】

- ◆ 北ロンドンハスルミアグループ『コーヒー:新帝国主義のルール:国際コーヒー貿易と国際コーヒー協定の研究』(1972)
- ◆ ワシントン大学社会科学研究所『消費者食品協同組合を組織する』(1972)
- ◆ 『多国籍企業と食糧システム:カリフォルニア食糧政策連合主催会議報告』(1977)
- ◆ フランシス・ラベ、ジョセフ・コリンズ『世界の飢餓:10 の神話』(1978)
- ◆ トム・ソーヤー (著)、ベッキー・サッチャー (編)『一世代でタバコを根絶する方法』(1970s)
- ◆ 『学校の危機:教員とコミュニティ』(1960s)
- ◆ 『オルタナティブスクール総覧』(1973)
- ◆ デヴィッド・ホロウィッツ『大学と支配階級:富が知識をポケットに滑り込ませる手口』(1969)
- ◆ フレッド・ピンカス『コミュニティカレッジを追跡調査する』(1974)
- ◆ 『近隣リサイクルセンターの立ち上げ方』(1973)
- ◆ キース・ベイリー、ボブ・マッシュューズ (編)『協同の経験:共同生活に関する論文と詩』(1984)
- ◆ ディック・フェアフィールド (編)『現代のユートピア:ユートピアを探求する現代人』(1971)
- ◆ 『オルタナティブな協同的生活ガイド』(1979)

反核運動／反戦運動／核軍縮運動／非暴力運動

【パンフレット (例)】

- ◆ デヴィッド・L. レンダーツ『ディアブロキャニオン原発の決定:権力、利益、人民』(1978)
- ◆ アバロン同盟『直接行動ハンドブック:ディアブロキャニオン 1978 年 8 月 6 日』(1978)
- ◆ エリザベス・ホイットニー『ディアブロキャニオン原発封鎖日誌からの覚書』(1981)
- ◆ アバロン同盟『直接行動ハンドブック:ディアブロキャニオン原発封鎖 1979-1980 年』(1983)
- ◆ スーザン・バーチラー、ジェーン・ミラー編『ディアブロ封鎖記録』(1983)
- ◆ 戦争抵抗者インターナショナル『現代の殉教者たち』(1927)
- ◆ ジェシー・ウォレス・ハガン『戦争抵抗の 30 年』(1942)
- ◆ マルフォード・シブリー、アダ・ウォードロー『服役中の良心的兵役拒否者』(1945)
- ◆ ホーリー・カンティオン他『監獄エチケット:受刑者のための情報集』(クリストファー・イシャウッド序文) (1950)
- ◆ A.K. ジェイムソン『ファシズムに対する非武装抵抗』(1963)
- ◆ ミルトン・メイヤー『不可能の技術:チェコの抵抗の研究』(1969)
- ◆ ノーマン・メイラー、バートランド・ラッセル他『我々は告発する:カリフォルニア州パークレー「ベトナムデイ」抗議集会演説集』(1965)
- ◆ 『戦争に抗して:写真で見る 1966 年 3 月 26 日ニューヨークベトナム反戦デモ行進』(1966)
- ◆ 平和構築運動『戦争税納税拒否ハンドブック』(1967)
- ◆ ピーター・ワイリー『ベトナムと環太平洋戦略』(1969)
- ◆ バーバラ・デーモン、アーヴィン・シルバー『ベトナム歌集』(1969)
- ◆ スタンフォード戦争犯罪研究グループ『ベトナムの合衆国:国際法と戦争犯罪に関する予備的報告』(1971)
- ◆ アルバート・E. カーン『残酷歌集:ニクソン政権により演じられた虚偽と欺瞞』(1971)
- ◆ ボブ・シーリー『300 年:米国における良心のための闘い』(1976)
- ◆ ミルトン・ミュラー『招集:社会統制のダイナミクス』(1979)
- ◆ アラン・ジェイコブソン、ジョン・グラナティア『勝利は我々にあり:湾岸戦争の結果』(1991)
- ◆ 下院非米活動委員会の廃止を求めるバイエリア学生委員会『真実を求めて:下院非米活動委員会のプロパガンダ映画「Operation Abolition」の分析』(1960)
- ◆ アレン・ギンズバーグ『ブルトニアン・オード』(1978)
- ◆ シンシア・ワシントン『国家安全保障の構築:軍縮アクションガイド』(1980)
- ◆ シンシア・ワシントン (編)『武器かバターか:80 年代の優先事項』(1981)
- ◆ アルバート・ピール『あらゆる戦争に抗して:「ピースニュース」の 50 年 1936-1986 年』(1986)
- ◆ エド・ラザー『コモンセンス:核の時代における戦争廃絶』(1987)
- ◆ セオドア・ボーリン『非暴力入門』(1944)
- ◆ ライル・テイタム (編)『20 世紀フレンド派平和の証言』(1966)
- ◆ クリストファー・コードウェル『平和主義と暴力』(1969)
- ◆ フレンド派平和委員会『高校生のための非暴力行動トレーニング』(1971)
- ◆ ウィリアム・モイヤー『非暴力行動マニュアル:非暴力のデモ・キャンペーンの実施法』(1970s)
- ◆ アルフレッド・E. アンダーセン『解放は非暴力によって達成しうるか』(1982)
- ◆ ロバート・クローネー、ヘレン・ミハロフスキー (編)『人々の力:米国における積極的非暴力』(1987)
- ◆ ライナー・ヒルデブランド『ガンジーからワレサへ:非暴力の人権闘争』(1987)
- ◆ 戦争抵抗者連盟『非暴力行動ハンドブック』(1989)
- ◆ バトリシア・バークマン『ラテンアメリカにおける市民の反乱的ストライキ』(1990)
- ◆ アダム・ロバーツ『東欧とソ連の革命における市民の抵抗』(1991)
- ◆ ジーン・シャープ『戦争廃絶:現実的目標』(1980)
- ◆ ジーン・シャープ『自主防衛』(1992)
- ◆ ジーン・シャープ『独裁から民主制へ:解放のための概念フレームワーク』(2008)



セクシュアリティ／ゲイ解放運動／女性解放運動

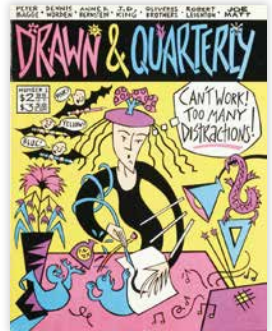
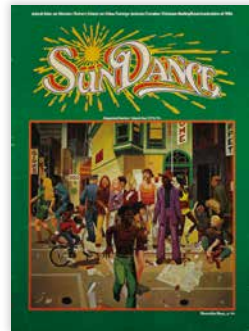
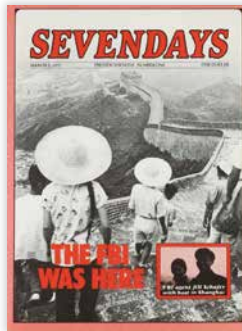
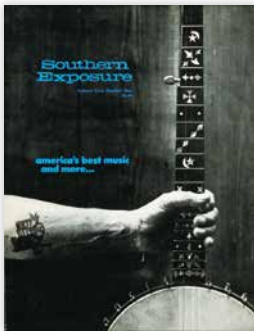
【パンフレット (例)】

- ◆ エリノア・ランガー『電話会社の女性』(1970)
- ◆ アン・D.ゴードン他『アメリカ社会における女性』(1972)
- ◆ スーザン・エフロス(編)『女性散文・詩作品アンソロジー』(1974)
- ◆ チャーニー・ゲテル『マルクス主義とフェミニズム』(1974)
- ◆ バークレー・オークランド女性連合『統一の原則』(1975)
- ◆ レイチェル・ヘダード、セリア・キャッスル『性差別の理論』(1977)
- ◆ リン・ゴールドファーブ『分離して不平等：第二次大戦後の女性労働者差別』(1978)
- ◆ 女性労働プロジェクト『オフィスを組織化する女性たち』(1978)
- ◆ 『妊娠中絶クリニックを立ち上げる女性労働者たち』(1978)
- ◆ ドナ・イボリット『2万人の蜂起』(1979)
- ◆ アンデレア・ドウォーキン『マルクスとガンジーはリベラルだったーフェミニズムと急進左翼』(1970s)
- ◆ 出産の権利情報プロジェクト『自らと自らの家族と自らの未来のために：出産の権利のための闘い』(1981)
- ◆ ロジナ・ヴィスラム『インドとパキスタンの女性：英国支配からの独立闘争』(1992)
- ◆ ジュリエット・ミッチェル『女性：最も長い革命』(刊行年不詳)

オルタナティブ出版／アングラ出版／アングラ漫画

【パンフレット (例)】

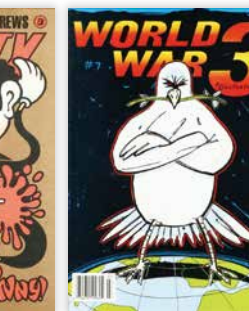
- ◆ フレディ・パールマン『知識人の矛盾：知識と行動を統合するためのライト・ミルズの闘い』(1970)
- ◆ ミッチェル・グッドマン(編)『新しいアメリカに向けた運動：長い革命の始まり』(1970)
- ◆ ポール・サンバーク『ファイアー!アングラ出版報告』(1970)
- ◆ クリスティン・レスリー・ジョンソン他『自分自身の本：セルフパブリッシング』
- ◆ ジム・フレミング、ピーター・ランボーン・ウィルソン(編)『セミオテキストUSA』(1987)



ユーモア誌／コミック誌／風刺漫画誌／パロディー誌



芸術文化／グラフィックアート



反戦・平和主義

- ◆ ノーマン・エンジェル『我々の内なるプロシア的なもの』(1915?)
- ◆ ノーマン・エンジェル『今次戦争はドイツ軍国主義の終焉となるか』(1916?)
- ◆ アーサー・ヘンダーソン『戦争を違法化する労働党』(1933?)
- ◆ オルダス・ハクスリー『平和主義者の道』(1936)
- ◆ クライブ・ベル『戦争屋』(1938)
- ◆ バルト・ドゥ・リフト『平和の科学序説』(1939)
- ◆ 『なぜ戦争をするのか:アインシュタイン・フロイト往復書簡』(1939)
- ◆ 『戦争抵抗者インターナショナルとは何か』(1930s)
- ◆ 『平和誓約連合と人権宣言:宣言全文付』(1941?)
- ◆ ダグラス・オーウェン『絶対的平和主義:ジョン・ルイス『平和主義駁論』検証』(1941)
- ◆ ジェシー・ウォレス・ハガン『戦争抵抗の30年』(1942)
- ◆ フランシス・ポラード『政策としての平和主義』(1946)
- ◆ アルバート・シュバイツァー『平和か核戦争か』(1958)
- ◆ バートランド・ラッセル『勝利を掴め:集団自殺に抗する集団的行動』(1961)
- ◆ ウォルター・ミリス『武装解除した世界』(1964)
- ◆ グレン・D. フック『核兵器との共存を容易にするために:核武装化における言語の役割』(1984)
- ◆ 『反戦運動 1914-1945年』(帝国戦争博物館) (1985)
- ◆ バートランド・ラッセル『戦争:恐怖の所産』(刊行年不詳)
- ◆ 『バートランド・ラッセル平和財団:その目的と業務』(刊行年不詳)

非暴力主義

- ◆ ビッジ・マッケイ『高校生のための非暴力行動トレーニングハンドブック』(1971)
- ◆ マーティン・ジェザー『戦争抵抗者連盟 1973年カレンダー:非暴力抵抗の50年』(1973)
- ◆ エドウィン・H・アルトン『教育の実験:シチリアにあるダニーロ・ドルチの新しい教育センター』(1975)
- ◆ ジョン・ファーガソン『ダニーロ・ドルチ』(1975)
- ◆ ジェフリー・オスターガード『ガンジーとオルタナティブな社会』(1970s)
- ◆ 向井孝『非暴力直接行動とは何か:戦争抵抗者インターナショナル日本支部のマニフェスト』(英語) (1970s)
- ◆ ロジャー・ローリンソン『ラザックの闘い』(1970s)
- ◆ 『ラザック:非暴力の大衆闘争』(フランス語) (1970s)
- ◆ 平和誓約連合『非暴力と非暴力行動:序説』(1985)

徴兵制反対・良心的兵役拒否

- ◆ フィリップ・スノーデン『兵役法完全解説』(1916)
- ◆ ジェイムズ・バー『良心的兵役拒否者』(1917?)
- ◆ 『徴兵制への絶対的反対:国民の良心への声明と訴え』(1917?)
- ◆ 『徴兵反対同盟:1914年から1919年までの活動』(1920?)
- ◆ E.I. フトキン『徴兵制の犯罪』(1939)
- ◆ 『良心的兵役拒否者と兵役法:良心的兵役拒否者と助言者への指針』(1942)

核廃絶・核軍縮

- ◆ ルイス・マンフォード『核戦争:解決法』(1948?)
- ◆ A.J.P. テーラー『抑止という大いなる神話』(1958)
- ◆ ジョン・ストレイチー『すべての水素爆弾を廃棄せよ』(1958?)
- ◆ フィリップ・ノエル・ペーカー『世界軍縮への道』(1963?)
- ◆ スタン・ニューエンス『反 NATO 論:核同盟の危険』(1971)
- ◆ デヴィッド・グリフィス『労働党と軍縮:決断の時』(1977)
- ◆ フランク・バーナビー『世界の軍拡と軍縮』(1978)
- ◆ E.P. トムソン『抗議して生き残る』(1980)
- ◆ E.P. トムソン『冷戦を超えて』(1982)
- ◆ アンドリュー・ホワイト『戦争のシンボル:ヨーロッパにおけるパーシング2と巡航ミサイル』(1983)

宗教

- ◆ ウィリアム・テンブル『キリスト教徒と戦争』(1914)
- ◆ W.H. モバーリー『戦時のキリスト教的振舞い』(1914)
- ◆ ハーバート・グレイ『戦争の唯一の代案』(1915)
- ◆ フランク・レンウッド『パリサイ主義と戦争』(1915)
- ◆ リリアン・スティーヴンソン『キリスト教インターナショナルへ向けて:国際友和会の物語』(1936)
- ◆ ジェラルド・ヴァン『戦争屋の心理学』(1938?)
- ◆ ロバート・デイヴィス『クエーカー教徒と戦争』(1940)
- ◆ E.C. アーウィン『カトリックの正戦論』(1940?)
- ◆ レジナルド・ソレンセン『キリスト教平和主義と民主政治』(1940s?)
- ◆ マーガレット・ハースト、キャスリーン・イネス『キリスト教会の平和の証し:歴史概観』(1940s?)
- ◆ マーティン・ニーマラー『平和への道』(1950s)
- ◆ ロレンツォ・ミラーニ『ミラーニ師の自衛』(1960s)
- ◆ シドニー・D. ベイリー『核兵器に関するキリスト教の視座』(1981)
- ◆ ドナルド・M. マッキノン『クレオンとアンティゴネー:核戦争の倫理的問題』(1982)
- ◆ ウィリアム・クラッセン『平和というリアリズム』(1986)

科学

- ◆ C.A.R. クリステンセン『フリチョフ・ナンセン:科学と人類に捧げた生涯』(1961)
- ◆ ハーバート・バターフィールド『人間の本性と恐怖の支配』(1960s)
- ◆ ソリー・ズッカーマン『科学顧問、科学的顧問、核兵器』(1980)
- ◆ ソリー・ズッカーマン『ヨーロッパ、アメリカ、核の影』(1983)
- ◆ マーティン・ライル『核のホロコーストに向かって』(1981)

経済・社会

- ◆ J.A. ホブソン『労働と戦争のコスト』(1916)
- ◆ ニコラス・カルデア、ジョーン・ロビンソン他『富裕のための計画』(1943?)
- ◆ コーリン・クラーク『持てる国々と持たざる国々』(1953)
- ◆ E.F. シューマッハー『福音書の光に照らして見た現代の産業』(1962)
- ◆ ケネス・E. ボールディング『平和の研究は可能か』(1960s)

ジェンダー・セクシュアリティ

- ◆ エルマ・K・バジェット『女性の領分』(1914)
- ◆ H.M. スワンウィック『女性と戦争』(1915?)
- ◆ セルマ・ジェイムズ、マリアローザ・ダラ・コスタ『女性の力と社会の変革』(英訳) (1973)
- ◆ アドリエンヌ・リッチ『強制的異性愛とレスビアンの経験』(1981)

国際関係

- ◆ J.A. ホブソン『国際連盟』(1915)
- ◆ H.R.G. グリーヴス『議会による外交の統制』(1933?)
- ◆ E.H. カー他『国際政府の将来』(1941)
- ◆ ラルフ・バンチ『平和と国連』(1952)

アイルランド

- ◆ ブレンダン・コリッシュ『新しい共和国』(1968)
- ◆ ダニー・ケナリー、エリック・プレストン『ベルファスト 1971年8月』(1971)
- ◆ サミュエル・ダッシュ『否定された正義:血の日曜日事件に関するウィッジェリー卿報告に対する異議申立て』(1972)

東欧

- ◆ ベイジル・デヴィッドソン『ハンガリーで起こったこと』(1956)
- ◆ サカシチ・アールバード他『わが同胞へ:ハンガリーの平和運動』(英語) (1963)
- ◆ マイケル・ランドル他『チェコスロヴァキアの支援』(1968)
- ◆ 『プラハからの声:チェコスロヴァキアと平和運動資料集』(1983)

- ◆ フェレンツ・ケーセグ、E.P. トムソン『ハンガリーの新しい平和運動』(1980s)
- ◆ マーク・トムソン他『血塗られたボスニア:ヨーロッパの悲劇』(1990s)

アフリカ

- ◆ エドモンド・モレル『アフリカ問題と講和』(1917)
- ◆ ロナルド・シーガル『アパルトヘイトの苦悶』(1960s)
- ◆ サックス『アパルトヘイトの暴力』(1969)
- ◆ サックス『南アフリカ:アパルトヘイトの暴力』(1970)
- ◆ ローレンス・シュレンマー『南アフリカにおける社会変動と政治政策』(1970?)
- ◆ M.J. クリスティ『サイモンズタウン合意:英国の国防と南アフリカへの武器売却』(1970)
- ◆ スティーヴ・ピコ『黒人意識と真のヒューマニティの探求』(1970s?)
- ◆ エイドリアン・ヘイスティングス『南部アフリカとキリスト教の良心』(1970s)
- ◆ アラン・ロバーツ『ロッシングファイル:英国のナミビアウラン極秘契約の内幕』(1980?)

東南アジア

- ◆ マーサ・ゲルホーン『新しい戦争』(1966)
- ◆ ジョン・K・ガルブレイス『ベトナムからの撤退法』(1967)
- ◆ ウィリアム・F. ペパー『ベトナムの子供たち』(1967?)
- ◆ ヨアヒム・シュルツ『ベトナムにおける米国の戦争犯罪に関する専門家の意見』(1969?)
- ◆ フェリックス・グリーン『ベトナム!ベトナム!』(1960s)
- ◆ ウィリアム・ウッドフェロー他『米国の援助:ベトナムに関するパリ合意の完全実行を阻む主要な障害』(1970s)
- ◆ グナール・ミュルダール他『恐怖の研究:南ベトナムにおける政治犯投獄・拷問・弾圧資料集』(1973)
- ◆ ホームズ・ブラウン『戦争の人質:サイゴンの政治犯』(1973)
- ◆ エドワード・ハーマン、ノーム・チョムスキー『反革命の暴力:事実とプロパガンダの大量殺戮』(1973)
- ◆ フレドリック・ブランフマン『米国大統領の秘められた戦争:インドシナとその先』(1970s)
- ◆ アイバー・モンタギュー『ベトナムのための平和?:合意とその先』(1970s)

Pamphlets on Left-Wing Politics and Radical Political Movements: Selections from the Ron Heisler Collection

英国

- ◆ トマス・クーパー『自伝』(1879)
- ◆ マーク・ラザーフォード(本名ウィリアム・ヘイル・ホワイト)『自伝』(1881)
- ◆ ヘンリー・ハインドマン『万人のためのイングランド』(1881)
- ◆ マリア・ルイーザ・チャールズワース『子ども天使』(1886)
- ◆ エドワード・エイヴリング、エレノア・マルクス・エイヴリング『女性問題』(1887)
- ◆ アニー・ベサント『人口の法則:その結果と人間の行動と道徳への影響』(1891)
- ◆ ジョージ・ハウエル『新旧の労働組合主義』(1891)
- ◆ バーナード・ショー『初期フェビアン協会の歴史』(1892)
- ◆ バーナード・ショー『アナキズムの不可能性』(1893)
- ◆ シドニー・ウェブ『社会主義の真実と虚偽』(1894)
- ◆ サミュエル・スマイルズ『フランスのユグノー』(1903)
- ◆ エドワード・カーペンター『監獄、警察、刑罰』(1905)
- ◆ ヘンリー・ハインドマン『社会主義の経済学』(1909)
- ◆ ジョセフ・ハイダー『土地国有化の擁護』(1913)
- ◆ ベンジャミン・ラウトリー『労働者と土地』(1914)
- ◆ ノーマン・エンジェル『講和条約とヨーロッパの経済的混沌』(1919)
- ◆ バートランド・ラッセル『自由への道:社会主義、アナキズム、サンディカリズム』(1920)
- ◆ ジョセフ・マッケイブ『ロバート・オーウェン』(1920)
- ◆ ハヴロック・エリス『愛と徳の小論集』(1922)
- ◆ マリー・ストーブス『賢明な親の性生活』(1923)
- ◆ ジョン・ラングドン・デイヴィス『女性小史』(1928)
- ◆ バートランド・ラッセル『結婚と道徳』(1929)
- ◆ ヒューバート・ヘッセル・ティルトマン『ジェイムズ・ラムゼイ・マクドナルド:労働党の運命の人』(1929)
- ◆ トマス・H. ベル『エドワード・カーペンター:英国のトルストイ』(1932)
- ◆ コンニ・ジリアクス『死にゆく平和』(ハロルド・ラスキ序文)(1933)
- ◆ C.L.R. ジェームズ『西インド自治政府擁護論』(1933)
- ◆ ウィリアム・モリス『ジョン・ボールの夢、王の教訓』(1933)
- ◆ G.K. チェスタトン『ノッティンガムヒルのナポレオン』(1937)
- ◆ カール・ポランニー『今日のヨーロッパ』(G.D.H. コール序文)(1937)
- ◆ C.L.R. ジェームズ『黒人の反乱の歴史』(1938)
- ◆ G.D.H. コール『進化する社会主義』(1938)
- ◆ ハーバート・リード『自由人の教育』(1944)

- ◆ ハーバート・リード『無垢と経験の年譜』(1946)
- ◆ G.M. トレヴェリアン『イギリス社会史』(1946)
- ◆ サミュエル・バトラー『エレホン』(1901)
- ◆ バーナード・ショー『非社会的社会主義者』(1914)
- ◆ トマス・ハーディ『帰郷』(1926)
- ◆ ウィンダム・ルイス『ワイルド・ボディ』(1927)
- ◆ F.R. リーヴィス『大衆文明と少数者の文化』(1930)
- ◆ サマセット・モーム『ランベスのライザ』(1930)
- ◆ ジョセフ・コンラッド『6つの物語』(1931)
- ◆ ジョージ・オーウェル『動物農場』(1945)

米国

- ◆ アレクサンダー・ホッジ『プリンストン神学校教授チャールズ・ホッジ伝』(1881)
- ◆ ローレンス・グロンランド著(バーナード・ショー編)『協同共和国:現代社会主義解説』(1880s)
- ◆ ダニエル・デ・レオン『改革か革命か?』(1896)
- ◆ エリオット・ポール『あるスペインの町の生と死』(1937)
- ◆ エドガー・スノー『中国の赤い星』(1937)
- ◆ オーウェン・ラティモア『モンゴル紀行』(1942)
- ◆ アーサー・シュレジンジャー・ジュニア『ジャクソンの時代』(1945)
- ◆ エドガー・スノー『栄光と隷従』(1945)
- ◆ ルイス・フィッシャー『大いなる挑戦』(1947)
- ◆ エドワード・ベラミー『顧みれば』(刊行年不詳)
- ◆ アプトン・シンクレア『アーサー・スターリングの日記』(1903)
- ◆ ジャック・ロンドン『燃える陽光』(1911)
- ◆ ジャック・ロンドン『神が笑う時』(1912)
- ◆ フランク・ノリス『ヴァンドーヴァーと野獣』(1914)
- ◆ シンクレア・ルイス『バビット』(1922)
- ◆ ユージン・オニール『アナ・クリスティ』(1922)
- ◆ アースキン・コールドウェル『アメリカの大地』(1935)
- ◆ リチャード・ライト『アメリカの息子』(1940)
- ◆ ロバート・E. シャーウッド『夜はもうない』(1941)
- ◆ リリアン・スミス『奇妙な果実』(1945)
- ◆ ハワード・ファスト『市民トム・ペイン』(1945)
- ◆ リリアン・ヘルマン『ラインの監視』(1946)
- ◆ アーサー・モリソン『壁の穴』(1947)



すべてのコンテンツと機能をお試しいただける無料トライアルをご提供しております。

商品に関するお問い合わせは、センゲージャーニング株式会社までお願いします。

Tel: 03-3511-4390 E-mail: GaleJapan@cengage.com URL: www.gale.com/jp